虎岩散策ワークシート

名前

自然の博物館周辺の岩石と地形

実物を観察してみよう

**１****長瀞の岩石と地形に関するもの**

　①結晶片岩・・・地下20～30kmの深さで作られた岩石で、その後地表近くまで上昇してきた。

構造は、特定の鉱物が平面上に並び、パイの皮のように何層も重なった構造をしている。

　②片理・・・結晶片岩がなしている構造の水平方向の割れ目のこと。

　③節理・・・結晶片岩がなしている構造の垂直方向の割れ目のこと。

　　　　　　　地殻変動で地表近くに上昇した際に、圧力が解放されてできたと考えられている。

　④紅簾石片岩・・・紅簾石というマンガンを含む珪酸塩鉱物を含むため、ピンク色を含む。

　　　　　　　　　　この岩体は、親鼻橋のすぐ上流にある。

　⑤ポットホール（）・・・流水と玉石による浸食作用によって、川底の岩盤に開いた穴。

　　　　　　　　　　　　　　 岩畳上にも大小さまざまなものが見られ、最大のものは直径２ｍ　　　にもなる。

**２　埼玉県立自然の博物館周辺の石碑**

　①「日本地質学発祥の地」の石碑・・・長瀞は日本の地質学の発祥の地と呼ばれ、明治時代から多くの地質学者や学生が地質巡検に訪れている。この石碑にも巨大な赤鉄鉱片岩の一枚岩が用いられている。

　②「宮沢賢治の詩」の石碑・・・博物館から虎岩のある河原への降り口にある。

**３　虎岩**

　＜解説＞　岩肌が虎の毛皮模様に見えることが名前の由来。スティルプノメレン片岩という産出の少ない結晶片岩からなる。

鉄やアルミニウムに富む珪酸塩鉱物

　＜スケッチ＞　虎岩を「片理」と「節理」がわかるように、スケッチしてみよう。

　　　（発展）上記のスケッチの色をぬり、その色の原因となっている物質名を調べよう。

